

事業の実施内容及び成果に関する報告書

1. 事業名

サイクルロードレース地域型総合育成システム  
Up B-ling System

2. 事業の実施経過

(1) 事務手続き関係

2017年

2月28日 申請書提出  
3月31日 決定通知書受理  
3月31日 事業の決定  
4月1日 事業の実施

2018年

3月31日 事業完了報告書提出

(2) 事務関係

2017年

4月1日 チーム所属選手 鈴木真理 を  
トレーニングコーチとして派遣

2018年

2月28日 中間報告書類提出・平成30年度事業申請  
3月31日 29年度活動事業報告書提出

3. 事業実施内容及び成果

4. 業界等において今後予想される効果

上記内容について、以下資料を添付する

3-2. 事前計画・自己評価書【様式4】

3-3. 事業成果報告書

3-4. ユースロードエントリーリスト

3-5. ユースロードリザルト

3-6. 効果測定

事前計画/自己評価書

1. 自己評価

① 実施計画

平成29年度4月から小学生4、5、6年生になる男女を対象とした自転車競技者育成事業を行う。専門のコーチ陣の指導による、安全・安心で高度な自転車競技者育成システムを構築することにより、競技人口の拡大と、プロ自転車競技者（ロード・トラック）として活躍できるアスリートの育成、及び育成システムを通じた人間力の向上を目指す。

② 事業の実施結果

4月22日に1期生のトライアウトを実施、14名の男子生徒が加入し、5月14日よりトレーニングが開始となった。メインコーチとして2017シーズン宇都宮ブリッツェンのキャプテンを務めた鈴木真理選手を起用。毎週水曜日・日曜日のトレーニングの他、県内サイクリイベントおよびレースに積極的に参加し、自転車運転技術の向上やチームのPR活動に努めた。

③ 事業の成果

所属クラブ員14名が、途中退会などなく無事1年間のカリキュラムを修了した。はじめはブレーキのかけ方すらおぼつかないクラブ員などもいたが、年度末には体格差などにより走力に差はあるものの、第一の目標であった「集団走行ができるようになる」をクリア。チームトレーニングにおいても10名程度の集団できれいなラインを作りながら一定速度で走ることができるようになった。次年度より中学1年生になるクラブ員3名は、トライアウトを経て強化チーム「ブラウブリッツェン」への昇格が決まった。

④ 自己評価

当初予定していた中学生対象のクラスについて、今年度実施は行わなかった。組織編制・実働スタッフの人数を鑑みると今年度については小学生14名規模での活動が適正だったと思われる。

年齢や体格によって走力に差はあったものの所属クラブ員いずれも加入当初から比較すると自転車の運転技術の向上が見受けられた。また市内で開催された小学生対象レースではクラブ員全員が参加、上位3名のう

ち2名枠をクラブ員が獲得した。平成30年度の2期生募集では、女子生徒を含む11名がトライアウトに参加し、10名の加入が決定した。

⑤ 実施計画を踏まえた、事業全体についての意見・所感

始動1年目ということもあり、クラブチーム運営における組織体制や活動指針において、細かな部分の修正や再検討が必要となる事態が度々おこった。子どもたちの送迎や備品の準備・バイクのメンテナンスなど各家庭におまかせせざるを得ない事項については、保護者の方の認識についても多少の誤差があった。本年度は体格・走力にばらつきのある子どもたちを面倒見るために2~3つのグループに分けて指導にあたった。次年度はクラブ生の総数が7名増の21名、加えて3名の女子クラブ員が加入となるため、より細かなグループ分けが必要になる可能性がある。細かくグループを分けた場合、そのぶん指導にあたる講師の増員も必要となるため、講師の人員拡充が必要である。

子どもに対する技術面の指導のほかに、スクールとしての確固たる組織体制の強化が次年度の大きな課題となる。

⑥ 優れている点・課題・改善すべき点

自転車競技選手を志す子どもたちにとって元プロ選手（オリンピック選手）による直接の指導が受けられるスクールはおそらく日本初の試みである。地元のプロロードレースチーム、競輪選手会、JKAの理解・協力のもと、幼いうちから「プロ仕様」の環境下で経験をつめるスクール体制は、他スポーツ業界を見ても極めて稀であり、この自転車業界だからこそ実現した体制であり、今後の自転車業界の発展においてこのような育成体制は必要不可欠であること、そしてその需要があることを感じている。需要拡大・クラブ員の増加に伴い、指導者の拡充が急務となるが雇用に伴う人件費の確保が大きな問題である。また本年の活動の中でクラブ員や保護者に対する諸問題への対応について、教育のノウハウを持っている者がおらず頭を抱えたこともある。指導者・運営にあたるスタッフについては自転車の知識・技術だけでなく諸問題についての対応能力や社交性なども問われる。

⑦ 総合評価点

恵まれた環境で競技に打ち込むことで、子どもたちにとって「プロの自転車競技選手」という夢がより身近で現実的なものとなったはずだ。また講師としてプロ選手を起用することで選手たちのセカンドキャリアとしての機能も臨めるだろう。話題性としてはかなり高く今後も継続して事業を展開・システムを確立していくことが命題である。

# サイクルロードレース地域型総合育成システム UP B-ling System

## 平成 29 年度事業成果報告書

### 1. 企画概要

#### 1-1. 事業名

サイクルロードレース地域型総合育成システム

「Up B-ling System(アップビーリングシステム)」

Up=Utsunomiya Pride(宇都宮のプライドと向上心)

Upbringing=育成

B-ling=BLITZEN+RING(輪)を繋げた言葉

#### 1-2. 概要

地域に根ざす宇都宮ブリッツェンがロードレースの魅力を子どもたちに発信し、将来、プロロードレーサーを夢見る少年たちの大きな受け皿となるジュニアクラブを設立する。

世界と戦える“Made in UTSUNOMIYA”の選手を育て上げる新たな育成システムである。

2017年8月より、チーム名は「BLITZEN STELLA(ブリッツェンステラ)」に決定。STELLA(ステラ)はイタリア語で“星”を意味する。チームカラーである黄色をイメージさせると同時に、これから自転車競技の世界で輝く存在になってほしいという願いが込められている。

#### 1-3. 設立目的

- ・ジュニア年代の選手と指導者との交流により、地域活性化、地域貢献に寄与する。
- ・自転車競技を通じた人間力の成長
- ・ロードレーサーとしての土台作り

## 1-4. 募集概要

### ① 対象者

・2017年4月から小学4年生、5年生、6年生になる男女。最大20名

### ② 活動場所

宇都宮森林公園、宇都宮競輪場、その他施設や周辺道路など

活動の中で森林公園・宇都宮競輪場が使用できない際には、下記別会場にてトレーニングを実施した。

・宇都宮市体育館

・トライ東

・トヨタウッドユーホーム展示場駐車場

・報徳自動車学校

### ③ 登録コーチ

・鈴木 真理(宇都宮ブリッツェン選手)

・柿沼 章(サイクルスポーツマネージメント株式会社代表取締役社長/元プロ選手)

・廣瀬 佳正(サイクルスポーツマネージメント株式会社ゼネラルマネージャー/元プロ選手)

ほか外部コーチとして

・曾我部正道(元ブラウブリッツェン所属選手)

・ブラウブリッツェン所属選手

・宇都宮競輪選手会

・宇都宮ブリッツェン所属選手

### ④ 会費

年会費 月/10,000円(税込)

ほか入会費 10,000円(税込)

## 2制作物

### 2-1. チームロゴ

宇都宮タワーをモチーフにしたエンブレムと、スペル表記の2種を作成。

チームウェアへの掲出のほか、今後のアイテム制作などで活用をしていく。



▲エンブレム



▲ロゴマーク

## 2-2. チームウェア

トレーニング時やイベント・レース参加時に着用する。

上ジャージのみ制作(半袖と長袖の2種を制作。)

チームカラーである「イエロー」をベースに宇都宮ブリッツェン、ブラウブリッツェンにならったウェアデザインを採用。  
応援企業・団体のロゴを掲出している。



▲ウェア正面



▲ウェア背面

## 2-3. ホームページや Facebook での活動報告に係るデータ

・ホームページ(宇都宮ブリッツェン公式ホームページ)

ブリッツェン公式ホームページ内に、ジュニア育成の紹介ページを作成  
活動報告などをアップしている

・Facebook(宇都宮ブリッツェン公式 Facebook)

ブリッツェン公式ホームページ内に、ジュニア育成のトレーニング報告を投稿している。

## 2-4. トライアウト用ゼッケン

トライアウトで使用するオリジナルゼッケンを作成。





